滿鐵愈よ大藏首

來月創立十五周年を機とし課長級以下多數の社員を

松本副社長の辭任決定

最近の經濟界不況の爲め平素淡室の的になつて居た日本郵船すら五百名の大淘汰をやつたが更に大きい半官營の

滿鐵會社も國山丸塔蓬炭鑛問題と引き續いて起つた醜事件に大分ごたくを生じたが早川千吉郎氏社長となつてから一奮革新に努めてゐるが昨年十二月退職手當を發表してから内々で老朽淘汰の歩を進め來る四月一日が

十五周年記念に當るので其れを機會に課長級以下各部を通じて多數に亙る淘汰をする筈であるそれは現在の人員が大正九年三月よりも增加して居る關係にも由るらしい尚巷間の噂の餘り香しくない現副社長松本丞治博士は辭任に確定し先月廿五日高級社員に大連を去るの挨拶をした

要求拒絶さる

住友伸銅分工場の怠業

工約一名一日突如怠業住友伸銅所尼崎分工場鋼管部職工約一名一日突如怠業に入り中島外五名の代表委員を

一、一時全部閉じて八割五分の減勞手當を拒絶すること

一、新に定めた請負規定を撤廢し從前通り他の工場と同樣の平均歩合を支給すること

の二項の嘆願書を提出したが之れに對し三日午後三時田中副支配人から讓歩の餘地なき旨の回答を與へたので職工側は目下善後策に就き協議中である（尼崎電話）

警官隊と職工團入亂れて格闘を演ず

横濱船渠の爭議益々惡化す

突然東神奈川驛より下車した東京の應援隊

横濱船渠の勞働爭議團は、依然惡の態勢を續け居たるが、五日朝東京より應援團同盟會員千餘名の應援に來るべしとの報に接し、爭議團は早朝より集合、横濱驛附近に來りて應援團歓迎の準備をなし居たり、一方警察側にては、此報に接するや、各署よりの警官隊三百餘名を召集し、横濱驛構内より船渠會社まで整列して警戒し相對峙し、通行人の停止するをも許さず、警戒厳重を極めたり、然るに東京よりの應援隊は、横濱驛に來らず、突然東神奈川驛に下車し、殘て斯くあるべしと潛伏し居たる爭議團二百餘名が次第に立現れて之を迎へ

會旗を先頭に、勞働歌を高唱しつゝ、太鼓を進み來りしより警官隊は大に驚き、横濱驛より急遽狼狽の態にて之々途中に立止めんと今井戸部署長の率ゆる一隊は、高島町に引返し、爭議團に向つて

突喊し、爭議團亦之に對抗して突撃し、將に亂闘を開始せんとしたるが、戸部署長警部を限りに冷靜々々と連呼し、辛うして警官隊を抑止し、應援團の松岡駒吉外三名を檢束したり、爭議團は殺氣を上げ、警官隊の後を追ひて横濱驛前に到り更に兩隊入り亂れて

遂に格闘を演ずるに至つた

急報に接せる壽、水上の兩署よりは警官隊百餘名

驅付け、職工團を追ひ散らさんとなしたる時、檢束されたる松岡氏は車上に突つ立ちて『東京に於ける警官隊暴の惡辣警は、遂に地方にも傳播せり』と悲痛なる叫びを上げたるより、爭議團は之に和して

喊聲を揚げ、中には微笑するものあり凄惨の氣漲渡なり、斯くて警官隊は、更に三名を檢束し、爭議團は戸部署に押し寄せしも遂に解散を命ぜられたり、それより一部は演說會場たる蒔田町の忠孝館に向ひ又勞働團本部にては、五日價格表を以て、前日

職首されし五十餘名に對する手當傳給等を郵送し來りしも、本部にては之を一樓めに、小包郵便を以て會社に突返し、目下本部にては横濱東署に對する義援策を中なり、船渠會社附近は五百餘名の警官隊にて取囲み形勢益す厳重を極めつゝあり

警官を痛撃し廿四名檢束さる

辯士悉く中止を喰ふ

横濱船渠職工結束固し

五日午前一時横濱驛前警官隊と衝突し警官の

横暴に極度に達したので十一名の辯士は

立會の警部に中止を命ぜられ同四時半萬歳を三唱後會

品質が好くて一番寛行のよい濃厚白味化粧料**ホーカー液**

場を引揚げたが途中廿四名の檢束者を出だし物々しい警官隊に終戒されつゝ戸部町の組合に到着解散したるが同夜更に幹部會を開き他の抗議を決したり（横濱電話）